

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4310710613		
法人名	医療法人社団 福寿会		
事業所名	グループホームくすのき		
所在地	熊本県天草市楠浦町288番地9		
自己評価作成日	平成29年7月30日	評価結果市町村受理日	平成29年11月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	平成29年10月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1人、ひとりの一日の過ごし方心身状態、有する力等の状態の把握に努め、入所者に笑顔のある毎日を過ごしてほしい。理念の安らぎを与える私の我が家となる様職員一体となり、入所者様へのお手伝いをしていきたいと思ひます。又年間の行事を行ったり、家族、地域との交流を大切にしていきたいと思ひます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホーム理念に込められた我が家に居る時のような普通の暮らし、個々に応じた生き方を支援する生活が営まれている。入居者に馴染みの食材(芋づる)を皆で下ごしらえし、そうめん流しの際にはセッティングした後に参加してもらうのではなく、大竹を運ぶところから見てもらい、庭先での作業を眺める様子が会話からも伝わってくる。母体を中心に長年にわたる医療・福祉への関わりは、地域の安心と信頼に繋がり、管理者は地元の人々から温かく接してもらうことが何より嬉しいと語り、地域の人々の好意や自然の恵みに感謝している。特別なことではなく入居者に必要なこと、発しておられることに寄り添えばそれが日々の暮らしであり、そのことを実践しているホームが居心地の良い場所を形成している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者様には、家族同様に安心して暮らしていただけるように、理念を忘れないように、目につく所に捧げ、職員皆で共有しながら、日々のケアに努めている。	開所から10数年を経て職員のみならず、入居者や家族にもしっかりと定着した理念である。『やすらぎを与える私の我が家』は文言を変え、プランの中にもここに居ることで本人や家族に安心してもらうという風に表記している。年2回の家族会や運営推進会議の中でも常に発信し、ホームの姿勢を確固たるものとしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の祭りや、行事、避難訓練等に参加したり、天草支援学校との交流会や、月1回のボランティアの受け入れも出来ている。	長年続いた地域交流は途絶えることなく現在も継続されている。入居者は日々の散歩で近隣の人々と会話し、地域資源を生活の中に取り入れ、隣接する漁協での夏祭りでは、舞台上に立って歌を披露し好評を得ている。月1度のお話ボランティアの来所や、支援学校との交流会も入居者の楽しみ事として定着している。	地域交流は継続され入居者の生活に潤いを与えており、今後は昔ながらの行事や祭りに家族へも声掛けし、共に参加できるような取り組みを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	家族介護教室がなくなり、地域の人々に向けてはあまりできていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者代表や地域の方、地域包括センターの職員に参加していただき、ホームの問題点や活動等報告し、話し合いながら意見交換し、サービス向上に活かしている。	隣接するデイケアサービスとの合同会議となっており、包括や地域代表者、家族、入居者が参加している。進行する中で包括から「説明などは口頭より文面で行ったらどうか？」との意見を受け、すぐに対処している。参加者からは意見とともにねぎらいの言葉が多く聞かれるようである。	会議内容はまとめられ玄関先に開示してはいるものの、家族や来訪者が手に取る事が無いのが現状であり、まずは開いてもらうような声掛けが必要と思われる。また、交流のある支援学校の関係者や地元の警察、消防署への参加を依頼することで幅広い意見がホーム運営に活かされることが期待される。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議での報告をしている。情報提供や介護の参加の依頼があれば必要に応じ提供したり、参加したりしている。	包括からの運営推進会議への参加により出された意見や提案が運営に反映されている。管理者は推進会議や事故報告、外部評価などの提出時には行政担当者と顔を合わせ、ホームの状況を伝えながら良好な関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の排除の方針を挙げ、定期的な勉強会や、研修への参加を行うことで、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束を行わないことが法人全体の総意であり、合同研修やホーム内の勉強会、外部研修に参加しながら、職員の更なる意識を深めている。特に言葉による弊害については、日々の生活の中で頻回に要求される排泄支援にも快く応じ、入居者に遠慮や不快な思いをさせないことでケアを統一している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会や研修へ参加し、虐待防止についての理解を深めている。日々、虐待に対して注意を払い、利用者の自宅や家族の対応等、職員内で情報提供し、虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内勉強会にて成年後見制度について幾度か学び続けてきたいので、活用に必要な性、意味の理解が見についてきている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約内容の説明には、ご家族の疑問等聞き入れながら行っている。途中での利用料金の改定などにも、説明を行い理解を得ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族交流会、家族アンケート、面会時等の機会に意見交換し、要望を聞き改善に向けて話し合い運営に反映している。	念2回の家族会や家族アンケートにより意見や要望を収集し、全職員で共有している。また、面会時には入居者の近況を伝えながら、さらに意見を引き出すよう努めている。日中はリビングで過ごされる入居者が殆んどであり、職員は共に野菜の下ごしらえなどの手作業をしながら、要望を聞き取り早期対応に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	勉強会に限らず、日常業務で感じた事などの意見や提案を聞きその都度話し合い対応を行う。	毎月の勉強会や日常の業務の中で管理者は統括師長とも連携を図りながら、職員の意見や提案を収集している。また、法人代表者も機会あるごとにホームを訪れ、入居者や職員と言葉を交わし、過ごしやすい、働きやすい環境の整備に努めている。現在、全員が女性入居者であり、これからも若々しく元気で過ごして欲しいとの思いから、防寒も考え明るいスカーフを首に巻いてもらう提案をされる姿が印象的であった。	管理者は今後も職員の意見やアイデア、特技を活かしたホーム運営に努めていきたいとしており、取り組みに期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人面接を行い職員一人ひとりの意見を聞く機会を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修、外部研修への参加する機会は確保出来ている。研修内容を職員へ伝える機会も設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者の連絡会や忘年会への参加で、意見交換や交流を図る機会を設けている。意見交換にてヒントをもらい、サービスの質向上へ繋がるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを導入する段階で本人が困っていることや不安に思ったり、要望等になるべく耳を傾けながら、本人の安心を出来るだけ獲得するための関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを導入する段階でなるべく家族等が困っていること、不安など要望等に耳をなるべく傾けながら関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを導入する段階で本人と家族等が「その時まず必要としていることを支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	看護職員は本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士として人間関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族を支援される一方の立場に置かず、出来る限り家族のきずなを大切にしながら、ともに本人を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人がこれまで大切にしてきた事や馴染みの人や場所との関係が途切れないようににんなで支援に努めている。	馴染みの海を見ながら生活できることは入居者にとって何より心穏やかに過ごせる環境である。散歩や地域の行事へ参加することは、知人との再会や方言でのやりとりに話が弾む機会でもあり、積極的に交流を行っている。また、食事支援では鮮魚や練り物など地元ならではの食を取り入れるようにしている。理美容支援においても家族の協力も得ながら、行きつけの店を継続している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を出来るだけ把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士に関わり合い、支え合えるように支援に努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービ利用(契約)が終了してもこれまでの関係性を大切にしながら必要に応じて本人、又家族の経過をフォローし、相談や支援に出来るだけ努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の日々の会話や表情等、伺いながら思い等を聞き取り、家族に説明を行い、希望などを聞き、職員で話し合いながらケアしている。	職員は日頃からチームワークを大切に、入居者と寄り添いの時間を持つように努めており、その際発せられた言葉や、感じられた内容から支援に繋げていくようにしている。特に入浴支援時や散歩中などは入居者もリラックスされており、職員の気づきも多いようである。また、家族の面会時にも本人の代弁者として感じられたことを、遠慮なく話してもらおうようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	他事業所などの情報や本人、家族へのアセスメントをもとにサービス利用の向上に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活状況等を観察し、身体レベル、病状などの観察を行い、状態変化時は、その都度カンファレンスを行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族に要望等聞いたり、主治医の療養上の注意点を聞き、職員でカンファレンス等を行い、状態に応じたサービス計画書作りに努めている。	入居者のこれまでの生活を熟知しながら、今後どう対応していくか全職員で話し合いながらプランを立案している。ケア会議には本人や家族はもちろん、法人医師や統括師長も同席し医療面の支援を含め、入居者の生活を後押ししている。この夏は特に猛暑だったことから、家族との外出を秋以降にプランに盛り込むなどその時々で支援内容を決定している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケア記録表や経過記録一般状況観察等行い記録し、変化時はその都度カンファレンスを行い、ケアの実践やプランの見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	主治医や師長の意見を取り入れ、他事業所との連携を取りながら本人に合った支援の取組みに心掛けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議にて入居者の状況や活動等の説明を行い、意見を出し合い、地域の消防団や区長さんに協力を依頼し、豊かな暮らしを楽しむことができるようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の回診、必要に応じて他科受診を行っている。他科受診の場合、家族と一緒に職員も同行し、主治医と連携を取りながら健康管理に努めている。	家族の希望するかかりつけ医を支援することとしている。現在は、もともとかかりつけ医であったり、日常や緊急時対応の点から法人医療機関を選択されている。他科受診については状況を共有するために、できれば家族での対応を依頼しているが、ホームでも柔軟に対応している。日常の健康管理は看護職員を中心に行い、毎日のバイタルチェックや表情観察など、何か気になることがあれば早目に受診を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態変化時は、常に24時間の観察相談をし、急変時は速やかに報告、指示を受け対応している。2名の看護師が勤務し、受診後も適切なアドバイスをもらい、支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	サマリーに詳細は記載しているが、入退院時には、医療機関と詳しく情報交換している。入院時には面会に行き、不安のないように精神的にも支え傾聴し、不憫な事は病院関係者に伝え、治療に専念出来るよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化の前段階、老衰病状が出現兆候の段階より本人、家族等と話し合いの場を設けている。看取りを行うか、医院に入院するか、意向を聞き取りしている。終末期には、母体の病棟看護師とも情報交換し、応援を得ながら支援している。	入居時に重度化や看取り支援についてホームの指針をもとに説明を行い、必要に応じて話し合うこととしている。職員は看取りに関する研修会の中で共有を図っている。管理者は今後も、医師との連携や入居者に日頃から何ができるか？模索しながら最良の支援にチームワークを持って取り組みたいとしている。	入居時に今後の看取り支援への要望等を個別で聞き取ることは、難しい面もあると管理者は語っている。今後は家族会などであらためてホームの方針などを伝え、思いなどを確認することも必要と思われる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎月定期的に勉強会を行い、急変時や事故時の初期対応マニュアルに沿った対応を行っている。また昼間、夜間それぞれに緊急対応時のマニュアルも作成し、目の付く場所に掲示している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時避難マニュアルを作成、掲示し、施設内に非常食を備蓄している。地域の消防団や住民と年2回、実践的な避難訓練をおホームで行っている。特に所在が漁師町とあり、台風や高潮への警戒は一早く住民より呼びかけがある。	年2回消防署や地元消防団の参加協力のもと避難訓練を実施している。また、地域での津波避難訓練(実際車で丘へ避難)にも参加し有事に備えている。熊本地震ではホームに大きな被害はなかったものの、自然災害についても意識を持って安全確保に努めることや法人との協力体制を図っている。備蓄については内容を書面にし、廊下に掲示する事で来訪者へも啓発している。	海を目の前にしたホームであり、地域全体で自然災害対策に取り組んでいる。火災については火を出さないことが一番であり、今後も火元やホーム周辺に燃えるものがないか、テレビの裏やコンセントの埃確認などに努めていかれることを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日ごろから丁寧な言葉使いを心がけ、相手の立場を尊重した対応に徹している。ただ、忙しいときなどに接し方が雑になっている場合もあった。プライバシーに関しては、職場外においても守秘義務を遵守している。	入居者への対応は尊厳と心をもってあたることを全職員が共有しケアに努めている。呼称は基本的に苗字にさん付けとし、同姓の場合などは家族の了承を得、下の名でも対応している。同性介助については、確認しながら希望に添えるようにしている。入居者が「トイレに行きたい」と数分おきに要望された場合も、職員はその都度気持ちよく対応する姿は、周りの入居者への安心感や新職員にも『くすのきの方針』として伝わっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	衣服や食事に希望等は極力実現できるよう努めている。対応する際も威圧的な言動はせず、自己決定しやすい雰囲気づくりを心掛けている。帰宅願望に対しては、話をそらしたりすることで対応しているため、希望に沿ってはいないと考えられる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	つい職員側の決まりを優先して行動しがちである。入浴や食事など、一人ひとりのペースに合わせて、ご希望通り実践できたら良いと思う。今後は極力利用者様側の要望に合わせた介護を行いたい。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類などをプレゼントできる機会には、その人らしいおしゃれが可能な衣類を提供している。しかし、実際に利用者様を衣料店などにお連れして選んでいただく等、努力したい。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者生の好みを把握し、好きな料理を提供できるよう努めているが、職員の都合で献立を決めることもあるので改善したい。旬の食材をうまく調理し、利用者様に喜んでいただきたい。	職員は入居者の好みや旬の食材を取り入れた献立を作成し、美味しいと喜んでもらえる食事提供に努めている。調理はその日の担当職員が行い、入居者もごぼうの中削ぎ切りや茶碗ふきなどできる事を一緒に行っている。直近では近隣から差し入れされたさつまいものツルを皆で皮むきし、メニューの一品(煮物)として食卓に並んだようである。食材も地域商店や鮮魚店からの配達を継続し、顔の見える購入が更に美味しい食事を作っている。職員は一名が交替で同じ食事を摂り、他の職員は介助や見守りの後、入居者と会話をしながら同じ席で持参した弁当などを開いている。	手作りの料理に入居者は「うまかね～！」「今日もごちそう！」と、職員との会話が弾む楽しい食事の時間であった。管理者は今後、外食など可能であれば取り入れていきたいとしている。今後も入居者の笑顔を引き出す食事支援を継続いただきたい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスまで考慮した献立作りが出来ていない時が多いので、利用者様の体調に応じた食事が提供できるよう心掛けたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは、個人の能力に合わせて、ウガイや歯みがきを行い、義歯はポリデント洗浄している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	失敗や尿意の訴えがない方に対し、定期的にトイレ誘導を行い、排泄チェック表に記入している。	居室にトイレが設けられており、入居者は自室でゆっくり自分のペースで排泄ができています。自立の方もおられるが、必要に応じて声かけや誘導を行っている。布パンツやリハビリパンツなど昼夜や状況に応じて使い分けており、夜間も安全面からポータブルトイレを使用される方もおられる。トイレ内は清潔を心がけ、臭気対策として消臭スプレーも準備している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食前後に牛乳を提供したり、食物繊維の多いメニューを多く盛り入れている。レクなどで無理なく離床してもらい、体操等で運動してもらっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	2日に一度のペースで入浴している。剥離等がないよう2人介助で行ったり、出来ることは本人でしてもらっている。	浴槽や洗い場など家庭的な浴室で、安全面にも配慮しながら1日おきに午前、午後で入浴を支援している。シャンプー類はホームで準備しているが、中には好みのものを個別で使用される方もおられる。現在は拒否される方もおられず、会話をしながら可能な限りゆったりと湯船に浸かってもらっている。	今後は更に入浴が楽しみな時間になるよう変わり湯(季節風呂や花風呂など)を取り入れることも一案と思われる。職員のアイデアに期待したい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人に合わせた生活のリズムや本人の体調を考慮し、休息してもらっている。入眠前に口腔ケアし、部屋の明るさを調整し、安眠してもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	本人に合わせた服薬方法を薬剤師や看護師と相談しながら、誤薬がないように声掛けしながら支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	料理、家事、外出を行い、本人の喜びや楽しみを見つけ、本人の希望に添った支援が出来るよう心掛けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人、家族の希望に応じ、外出、散歩など対応し支援する。交流として、地域の行事、祭り等、地域の方々、家族の協力を得て参加している。	馴染みの海や山々などを望める環境にあるホームは、散歩や散策を通して季節や戸外に出る楽しみを味わってもらえるようにしている。また、地域の人々との交流にも繋がるよう努めて祭りや神社参拝に出かけている。足湯を楽しむ外出は恒例になっており、衣類や靴など日用品の買物支援など数名ではあるが、実現している。また、外出支援についてはプランの中に盛り込み、暑い夏場を避けて早速秋に自宅への帰省など希望や家族の協力を得て実施している。	新たな外出支援については、トイレの設置や車椅子使用、入居者の心身面の負担なども十分検討して実施していることが聞き取りからも確認された。地域の夏祭りでは入居者がステージに立つなど家族の声援があれば更に嬉しい時間になったのではと考える。今後は家族の参加協力や情報発信についても努めていかれることを期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本として、お金は事業所で管理している。物品購入などの希望時は、その都度対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人からの電話希望あれば都度対応している。また家族や友人など外からの電話や手紙にも取り次ぎ等に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の場には花や季節感を出した絵や、写真など飾ったり、整理整頓を心掛け、居心地の良い雰囲気作りを行っている。	玄関やテーブルには庭先や職員が持ち寄った花を飾ったり、職員がアイデアを出した壁面の掲示など季節感のある空間である。また、『くすのき写真館』と名付けられたコーナーには、地域との交流や外出時の写真が掲示され来訪者にも楽しみとなっている。テレビの音量やBGMなども入居者の不快にならないよう配慮しており、職員の声かけや安心できる対応も居心地の良い環境を作っている。	ホームだよりに掲載できる写真はスペースや大きき的にも限られており、今後はアルバムにして共用空間に置くことで更に入居者と家族の楽しみにも繋がるものと思われる。管理者はリビングに置かれた職員手作りの足乗せ台に、カバーを掛けて雰囲気を作りたいとしており、取り組みに期待したい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用の場には、ゆっくり和める量の間や木の合う利用者同士でテーブルを囲んだり、景色を眺められるデッキなど、くつろげる場を設けている。又、季節に応じた飾り付けを心掛けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物、利用者のなじみの物などで居室を飾り、また必要な物など希望があれば、家族へ連絡し持ってきていただくなど、対応している。	入居後も本人が安心して生活ができるよう、必要なものは何でも持ち込んで欲しいと家族へ伝えている。すみれやたんぽぽ、ひまわりなど花の名が付いた部屋は、トイレや押し入れが設置された使い勝手の良い広さである。日常着や外出着を下げたスタンドハンガー、椅子、テレビ、ラジオなどの持ち込みの他、家族から届いた写真や面会時に撮った写真なども掲示されている。また、仏壇や遺影の置かれた部屋には、生前の好みの酒なども備えられていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム全体を安全に過ごせるよう、手すりなど設置し、バリアフリー設計。身体レベルに応じ、夜間はポータブルトイレを使用してもらうなど、職員間でカンファレンスを行い、見守りの強化で安全確保。利用者個々の出来る事などは大切に尊重し、支援する。		